

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第2回 佐渡市地域包括ケア会議
開催日時	令和5年11月30日(木) 14時00分開会 15時20分閉会
場 所	畑野農村環境改善センター 多目的ホール
議 題	高齢者のごみ問題について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>参加者 (公務員除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係団体 6名 <p>(公務員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟県佐渡地域振興局 健康福祉環境部地域保健課 主任 鈴木麻依 ・ 佐渡市消防本部 予防課 課長補佐 中川清昭 ・ 佐渡市市民生活部 健康医療対策課 課長補佐 渡辺桂子 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡市市民生活部 生活環境課 課長 海老 斉 ・ 佐渡市市民生活部 生活環境課 クリーン推進係 係長 児玉三也 ・ 総合福祉相談支援センター 相談支援係 主任保健師 廣嶋里美 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 主事 飯山由貴 ・ 佐渡市社会福祉部 高齢福祉課 高齢福祉係 生活支援コーディネーター 渡邊 睦 ・ 各地域包括支援センター 3名
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 No. 1 「令和5年度 第2回 佐渡市地域包括ケア会議について」 ・ 資料 No. 2-1 「佐渡市内の介護保険外の在宅福祉サービス」 ・ 資料 No. 2-2 「ごむしんネット」 ・ 資料 No. 3 「地域コミュニティ交付金」 ・ 資料 No. 4 「ごみの分別・収集の現状」 ・ 資料 No. 5 「中包括圏域ケア会議の資料」
傍聴人の数	0人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
高齢福祉係 主事	1. 開会
高齢福祉課 課長	2. 挨拶 欠席のため省略。
座長 A 氏 高齢福祉係 主事	3. 議題『高齢者のごみ問題について』 (1) 会議概要説明「第 2 回 佐渡市地域包括ケア会議について」 資料 No. 1 により説明。質疑なし。
高齢福祉係 主事 委員 B 氏	(2) 佐渡市福祉サービスにおけるごみ出しの支援について 資料 No. 2-1、資料 2-2、資料 No. 3 により説明。
座長 A 氏	地域コミュニティ交付金について、交付されたお金はどうやって使うのか。
高齢福祉係 主事	人件費や消耗品などの経費に使う。
座長 A 氏	ごむしんネットについて、ボランティア登録されている方は何名か。
委員 B 氏	全島で 85 名。地区によりばらつきあり、両津や国中地区は多く南部は少ない。
クリーン推進係 係長	(3) 佐渡市のごみ収集と現状について 資料 No. 4 により説明。質疑なし。
佐渡中地域包括支援センター	(4) 圏域で挙げられている課題について 資料 No. 5 により説明。
座長 A 氏	現場でごみ問題が問題になっている件数は把握しているか。
佐渡中地域包括支援センター	そんなに多くはないが、サービスを利用したり、関係者で 1 回ごみを片付けたりの一時的な解決になっている。根本的な解決はできていない。
委員 C 氏	(5) 意見交換 様々なサービスがあり、弁護士会としては、在宅の後見で利用させてもらうことが多い。サービスや制度など、どのように

<p>佐渡市健康医療対策課 課長補佐</p>	<p>周知しているのか気になった。</p> <p>ごみ出しで困りごとのある家庭、特に独居高齢者について、周囲で継続して声掛けや見守りをしていくのはよいと思った。こういう困りごとは周りからの申告で把握されるのか、包括などが介入して発覚するのか。</p> <p>地区保健師として活動していたとき、かなり困ったケースでごみ問題はとても身近で、相談者として社協・包括と一緒に関わることもあった。</p> <p>地域懇談会で地域の実情、「ここに困っているのでは」等の話し合いをしていく過程がとても大事だと思う。現状は、ざっくばらんに話ができる場が無い。</p> <p>地域コミュニティ事業、意見を集める機会を設け、一緒に話をしてみて、知って対策を考えるような仕掛けが必要ではないか。</p>
<p>佐渡市消防本部予防課 課長補佐</p>	<p>「高齢者のごみ問題」、直接消防が関わることはない。</p> <p>このような家庭から救急要請があったとき、基本的に救急隊は靴を脱いで家へ上がるが、靴を脱ぐことを躊躇うときはシューズカバーを付けることもある。</p> <p>居室で全ての生活をしている方で、一年中、こたつ・ストーブが出ており、ごみ等が多く散らかっている現場に遭遇することがある。そのような家庭は、昔からの反射式ストーブがある印象。点検はしないと思われ、それだけでも火災リスクが高まる。カセットコンロを部屋に持ち込み調理をするらしく、カセットボンベが散乱していることもある。コタツに足を入れ後ろに布団を敷き、ずっとそこで寝起きをする。布団・ごみ・様々な物が火災原因になる。訪問した先がこのような環境なら注意をしてほしい。</p> <p>消防は春・秋の火災予防運動の際に、高齢者宅へ防火訪問をする。散らかっているのを見かけたら「十分気を付けてください」と声かけをしている。</p>
<p>新潟県佐渡地域振興局 地域保健課 主任</p>	<p>地域振興局として、具体的な取り組みは難しい。</p> <p>ごみを溜め込む要因が、個人・社会等、複雑に絡み合いながら、そのような状況ができてしまうと考えると、地域での見守り体制を整備、隣近所等の近い範囲での見守りの機会が大切だと思う。</p> <p>ごみ収集所まで持って行くのが大変なのか、認知力低下なのか、様々な背景があると思う。健康的にも十分な栄養が取れているか、経済的に管理ができていないか、その人に起きている問</p>

<p>委員D氏</p>	<p>題が様々に絡み合っているのではないか。それに寄り添う支援が大切になる。</p> <p>急に認知力が落ちてしまった認知症疑いの方を、ごみ出しをきっかけに地域の方たちが気づき包括に相談する、という繋がりも大事になってくる。そのような普及啓発等も引き続きできるといい。</p> <p>リハビリでは、特にごみ出しを意識した訓練は決まっていなが、一人暮らしの方には、ごみ出しを想定した歩行訓練を中心に、階段の昇降等を取り入れている。</p> <p>地域コミュニティ交付金制度・ごむしんネットを知らなかった。実際に一人暮らしの患者と関わることは多く、退院したらどうやって生活していくのか心配で、実際に援助できない切なさがあつた。この会議に参加したことで、訓練のやり方を、もう少し実践的に繋げていきたいと感じた。参加してよかったと思う。</p> <p>地域コミュニティ交付金の制度は、どのように集落に知らせたのか。</p>
<p>高齢福祉課 主事</p>	<p>市報に掲載、地区によっては回覧した。関係機関で「ここは必要そうだ」という集落をリストアップし、説明に伺ったところもある。集落の中で助け合う事業、例えば、ごみ出し・買い物・草刈り・雪かき等、「ちょっとした困りごとを地域の中でやっていきます」ということに関して対象になる。</p>
<p>委員D氏</p>	<p>せつかくのよい事業、もっと積極的に働きかけてはどうか。もう少し利用しやすいように、身近に感じられるといい。</p>
<p>座長A氏</p>	<p>私は集落の役員会で聞いた。佐渡市職員だった方がいる集落ではさっそく使っている。周知の面、我々は知らなかったのので、やはり各集落に周知してもらった方がよいと思う。</p>
<p>委員B氏</p>	<p>ごみ問題、話し始めるとキリがない。何ができるかはケースによって違い、地域の中で課題を見つけていく努力を常にしないと、なかなか発見に繋がらない。集落の役員がその役割を担っていけるかは、正直「しない放題」の状態であるケースが多い。今年やっても継続的に繋げていくことが今の集落組織では上手くいかないところもある。</p> <p>社協では地域懇談会を開催し、地域の困りごとを掘り起こしていく作業をしている。毎年、幾つかの地区で開催計画を立て、集落長と個別に、いつやるか・話したいこと・相談したいこと</p>

<p>委員 E 氏</p>	<p>等を打合せ、地域懇談会を設定する。これをきっちりやっていると地域問題が表に出てこない。</p> <p>認知症が進むと、明らかにごみだと分っていても、その方にとってはごみそのものが財産。だから、「もう捨てていいのではないですか」と言っても捨てず溜め込んでしまう。勝手に人の家に入って「捨てましょう」もなかなかできず、そこは人間関係を作っていくしかない。やれるところからやっていき、どうしても処分できないところは、見守っていくしかない。</p> <p>多くの人の目に入るとというのがとても大事、そういう取り組みを継続していきたい。</p> <p>ごみ問題、看護協会としてできることは具体的にはない。病院勤務だと、なかなかごみ問題等の情報は入ってこない。</p> <p>患者の情報をどのように得るか、どのように多職種と情報共有するかが課題。例えば、入院患者が家中ごみだらけで帰れないというケースがあった。医療現場からも見られるそのような情報が分かるシステム構築を、佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会が行っているようだ。ひまわりネットもあるので、上手く活用し今後発展していけるといい。</p>
<p>座長 A 氏</p>	<p>ごみ問題、その高齢者がどのような状態かが一番重要だと思う。認知症なのか身体が不自由で集積場まで持って行けないのか、全然条件は違う。</p> <p>ごみ屋敷は、ひとつの認知症のサイン。認知症対策するべきところが出てくるかもしれない。認知症のタイプでも反社会的な行動をとる前頭側頭型認知症等いろいろあるが、そのためにごみ屋敷になることがあると聞く。まずは個人の状態把握が必要だと思う。</p> <p>新潟市では草木ごみは無料。佐渡市でも費用負担の面から環境整備に関して、草木ごみの無料を検討してもよいのではないか。</p> <p>ごみ出しとごみ屋敷は全く別の問題で、地域で支援できるのはせいぜいごみ出しまで。地域で個人の家に掃除に入ってごみをまとめたり、ごみ屋敷を整理するのは不可能。ごみ屋敷は様々な法的問題があり、共助の域を超えており行政の課題となる。高齢者が自分でごみをまとめられなくなった時点で介護が必要だという認識を持ち、地域は高齢者の見守りを続けていくしかないのではないか。</p>
<p>委員 F 氏</p>	<p>郵便局でも「見守りサービス」を行っているが、現状、加入者が減少している。「見守りサービス」をしていたときは「ごみ</p>

<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>を捨ててくれ」という要望にも多少は対応していた。 事業的に、ごみ問題は特に関わることがない。 2～3年前の総会で、民生委員が「ごみを出してほしい一人暮らし高齢者の方がいるようだったら話してください」と話すと、こっそり言う人は2～3人いたが、表立って言わない人がほとんどだった。一人暮らしは女性が多く、その人たちとの意見交換の場を作り、本当にどうなのか聞いてあげないといけない。「自分のごみを見られたくない」「開かれて中身を探されるのではないか」という心配もあったようだ。どうしたらごみ出しのサービスが使えるのかを話し合っていくことが非常に重要だと思う。それが解決したなら、ごむしんネット、地域コミュニティ交付金を使い、地域でやってくれる人を作るといい。 私の集落は50世帯、1回が5万円、年間10万円もらえるということか。 上半期で5万円、下半期で5万円、計10万円になる。</p>
<p>委員F氏</p>	<p>10万円を人件費に使ってもよい。そのような形でやってくれる男女1人ずつとかいけばやってみてはどうか。小さいところから広がりを見せるのが、ひとつ手かと思う。 ごむしんネット、ボランティア（作業される方）にはお金は入らないのか。</p>
<p>委員B氏</p>	<p>入る。遠距離の方には交通費も出る。利用者は社協に支払い、そして社協からボランティアにその金額を支払う。最初は当事者同士のやりとりだったが、トラブルになったため社協が介入した。</p>
<p>委員F氏</p>	<p>それなら私の集落でできないことはない。やってみたいと思う。</p>
<p>座長A氏</p>	<p>佐渡は少子高齢化が進み、何より介護の担い手がないというのが一番重要な問題。どう解決していくか、行政だけではかなり負担がある。現場にいる我々が知恵を出し合い、効率的なシステムを作っていく必要があると思う。行政は、今日出た意見を参考にいただき、今後にいかしてほしい。 このような会議は、地域課題を「地域ケア会議」では共有するが、地区の代表の方とも共有する必要があるのではないかな。そういう機会をぜひ持ってほしい。</p>
<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>市として今できる宣伝方法が、市報への掲載、市公式 SNS</p>

<p>高齢福祉係 生活支援コーディネーター</p>	<p>(Facebook、LINE、Twitter)、市ホームページ、嘱託員文書くらい。皆様の所属で何か取り組みがあり、チラシの配布が可能であれば市役所に情報提供してほしい。皆様の方が市民生活に寄り添っており、そこから周知してもらえればと思う。</p> <p>佐渡市公式LINEで11月から「ごみの収集日お知らせ」という、収集日前日の19時にお知らせが来る機能が追加された。ごみ問題の解決に向けて使えるかなと思う。他に、石川県金沢市では、市公式LINEアカウントでごみ処理券の購入・決済ができる。また、新潟日報に令和4年10月から、指定ごみ袋をレジ袋にすることで、買い物をするときのレジ袋が、そのままごみを捨てる時のごみ袋として使える燕市などの取り組みが紹介されている。</p>
<p>委員D氏</p>	<p>SNSでお知らせするのは、それはそれでよいと思うが、高齢者はほとんど利用していない。例えば、年度が始まる時、集落長・総代が集落の方々に「こういうものがあります」とお知らせする。「集落みんなはどうですか」という働きかけがあった方がいいのではないか。</p> <p>相川・羽茂には有線放送がある。そこでごみ出し日を有線放送で流す、というのもあっていいと思う。</p>
<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>4. その他</p> <p>本年度の地域包括ケア会議は年3回開催、次回は2月を予定している。ご協力のほどお願いしたい。</p>
<p>高齢福祉係 主事</p>	<p>5. 閉会</p>